



ルルドのお告げのテープの写し

あなたは、ルルドに単なる好奇心からおいでになったのでしょうか。今いろいろな質問があなたの心に浮かんだ事だと思います。なぜ人々が洞窟で祈っているのか、なぜ一時はさびれてしまったこの土地に そんなに多くの教会があるのか なぜ群衆が集まり行列が行なわれるのか そうです あなたにとって ルルドは全く不思議な場所であるかもしれません。また一方では あなたは神に向かってのほんとうの第一歩であるこの訪問を何日間も心待ちしておられたことと思います。あなたにとって、ルルドは真の祈りの場であったはずです。そしてあなたはついにここに来て、恐らくは多少の失望を感じておられるのではないかでしょうか。町を歩いてみて、ルルドが商業化され、神が営利に利用されているのを知ってショックを受けられたことと思います。この聖域に到着して、あなたは強烈な感動を予期しておられたことでしょう。しかし、あなたはなんの感動もうけなかった。それどころか、あなたの心は冷えてしまったことでしょう。

しかし、この第一印象を心配する必要はありません。たとえあなたがだれであっても、聖母がここで何がおこることを望んでおられたかを、理解しようとなさるでしょう。なぜなら、あなたがここでご覧になるのは人間的な産物でもなければ、またこの場所が選ばれたのは偶然でもありません。それは、聖母がベルナデッタにお示しになった、キリストへの道なのです。

まず最初に ベルナデッタとはどんな人だったのでしょうか。彼女は、読み書きもできない十四の少女でした。彼女の家族は貧しい家の出身でした。ルルドのテフ司教は次のように言っています。

「もしかれかが、ルルドの人たちに聖母の使者を選ぶように言ったとすれば、だれもベルナデッタのことを考えなかつたであろう。それどころか、その選考から、彼女を除外することさえも考えなかつたであろう。」

彼女は知っている人は、ほとんどいませんでしたし、また知っている人も、彼女にはほとんど関心を払いませんでした。それにもかかわらず、聖母がお選びになったのはベルナデッタでした。なぜでしょう。それは、この貧しい、謙遜で目立たない少女が、聖母のご希望を忠実に実行するという、一つの優れた素質を持っていたからです。ベルナデッタは聖母の忠実な使者であり、聖母のお言葉をいつも正確に伝えました。

ベルナデッタ自身の語る、最初の出現の模様をお聞き下さい。

「私が最初に洞窟に行ったのは、2月11日の木曜日でした。私は二人の少女たちと一緒に焚き木を集めに行つたのです。私たちが水車小屋にいた時、私は皆に運河がどこでガブ川に合流しているか見に行かないかと言いました。彼女らが賛成したので、私たちは運河にそって歩きました。そして洞窟の前まで来ると、それから前へ進むことができませんでした。私の二人の友達は、洞窟の前にある小川を渡る準備をしました。彼女らは小川を渡りましたが、ぶるぶる震えていました。そこで、私はぬれないように小川を渡ることができかどうかを知るために、私が石を投げるのを手伝ってくれるように頼みました。しかし彼女らは、もし私が小川を渡りたいのなら、彼女らがしたようにしなさいと言いました。私はぬれないで渡れるかどうかを見るために、少し進んでみましたがやはりダメでした。そこで、洞窟の前まで引き返して、靴を脱ぎ始めました。私が片方のストッキングを脱ぐか脱がないうちに、突風のような音が聞こえました。そこで私は振り向いて、野原の方を見ましたが木は動いていませんでした。そこで、私はストッキングを脱ぎました。すると再び前と同じ音が聞こえました。私が顔を上げて洞窟の前を見ると、白衣の婦人がいました。彼女は白のベール、青の帯を身につけていましたが、帯の両端の所には、ロザリオの鎖と同じ色の黄色いバラが、一つずつ付いていました。私はその時、少し震えました。私は見間違えたのではないかと思いました。私は目をこすりました。私はもう一度見ましたが、そこには同じ婦人がまだいました。私は手をポケットに入れて、そこにロザリオがあるのを確かめました。私が十字を切ると間もなく、私を襲った恐怖が消え去りました。

た。私はひざまずいて、この美しい婦人の目の前でロザリオの祈りを唱えました。聖母は、ご自分のロザリオの数珠を指でつまぐっておられましたが、彼女のくちびるは動いていませんでした。私がロザリオを唱え終わると、彼女は突然消えてしまいました。」

このようにして、2月11日の出現は終わりました。聖母は再び、2月14日、2月18日より3月4日まで2日間を除いて毎日、3月25日、4月7日と7月16日に、出現なさいました。

聖母は2月18日、この少女に次のようにおっしゃいました。
「どうか私のために、15日間毎日ここにきて下さい。私は現世にあなたを幸福にしてあげるとは約束しませんが、来世で幸福にしてあげます。私は外の人達にも来て欲しいのです。」

聖母はまた、14日間の間に次のように少女におっしゃいました。
「罪のために祈りなさい」
「罪のために、地面に接吻なさい」
「痛悔（つうかい）なさい、痛悔なさい、痛悔なさい。」
「行って司祭たちに、ここに教会を建てるように言いなさい。」
「私は人々に、巡礼としてここに来て欲しいのです。」
「行ってあそこの草を食べなさい。」
聖母は3月25日になるまでは、ベルナデッタにご自身のお名前はおっしゃいませんでした。ベルナデッタはその模様を、次のように話しています。
「15日後に、私は三度、どうか名前を教えて下さいとお願いしましたが、彼女はその度に微笑なさるばかりでした。とうとう私は四度同じ質問をしました。すると、彼女は、両手を両側に下げたままで空の方をご覧になり、次に両手を指先でお組みになって私は原罪なくして宿った者ですとおっしゃいました。これが聖母が私にお話になった最後のお言葉でした。」

ベルナデッタは、その後4月7日と7月16日の2度にわたって聖母に会っています。これが最後の出現でしたが、聖母はこれまでよりももっと美しく見えたそうです。

聖母が、ほんの少ししかお話にならなかつたことはお判りになったと思いますが、聖母のお告げを次の三つの言葉に要約できます。それは、「祈り」「痛悔」、そして「聖体」への招待です。

先ず第一は、「祈り」への招待です。御子が私たちにお遣わしになった御母、聖母は、ベルナデッタとともに普通の母親のようにお祈りになりました。聖母はその全ての出現において、難しい祈りよりもむしろベルナデッタとロザリオの祈りを唱えられ、天使祝詞の聖母に対する賛美に耳を傾けられ、そして、ベルナデッタとともに神に栄光あれと三位一体を賛美なさいました。

聖母は何度も「罪のために祈りなさい」と繰り返されたが、あなたはなぜ聖母が祈りの必要性を力説されたのか疑問に思っておられるかもしれません。

私たちは、忙しい生活の手を休めて、私たちの創造主であり、神ご自身のために私たちをお造りになった神に、毎日向かわなくてはなりません。私たちは謙虚な心で神に近付き、父に対する子供のように、私たちの必要とするものを神に告げなくてはなりません。私たちは、毎日の生活にあまりにとらわれ過ぎているので、これは容易なことではありませんし、毎日の生活の手を休めて私たちの創造主である神に向かうためには、努力を必要とします。ベルナデッタとロザリオの祈りを唱えられた聖母から、私たちは一つの教訓を得ることができます。私たちは、時々ロザリオの祈りを最初から最後まで唱えることによって、私たちの希望と祈りを、聖母を通して御子キリストに捧げなくてはなりません。

第二の招待は、「痛悔」への招待です。聖母はベルナデッタに対し、何度も「痛悔なさい、痛悔なさい、痛悔なさい」とおっしゃいました。聖母は彼女に対して、大変やさしい償いをお与えになりました。例えば、罪のために、地面に接吻なさいとお命じになりました。賢明な母親のように、彼女にたいして断食を要求はなさいませんでした。なぜなら、子供は栄養を必要としているからです。聖母は、子供でも果たせるような償いをお命じになったのです。ところで、なぜ痛悔が必要なのでしょうか。痛悔は私たちすべてにとって必要なことなのです。私たちが、人生における目標を達成するためには、なんらかの形式の修養と禁欲をおこなう必要があります。キリスト教信者の場合は特にそうです。それは、私たちの犯した罪のために、そして、私たちが誘惑を受けたときに、自分自身を強

くするためには必要です。私たちは誰でも、時々誘惑を感じますが、その対策としては、誘惑に負けないことです。むしろその誘惑に打ち勝つ努力をすべきです。キリストが「私に従う人には誰にでも、毎日彼の十字架を背負わせて、私のあとに付いて来させる。」とおっしゃったのは、このことを指差しているのです。

聖母が私たちに望んでおられる痛悔には、まだもっと深い意味があるのです。痛悔によって、私たちと神との間の障害を克服して、もっと神に近付くことができるのです。私たちは、ルルドではいつも神に対して告白すべきです。この痛悔をすることが私たちの罪の償いになり、さらに、痛悔によって、私たちは言葉の上ののみならず、行動においても真に近付くことができるのです。そこで、私たちが罪人の改心を願って祈るときは、私たち自身も罪人であると考えるべきです。なぜなら、私たちも神の前では改心する必要があるからです。

最後は「聖体」への招待です。聖母は、「行って司祭たちに、ここに教会を建てるようにいいなさい」とおっしゃいました。また「私は人々に、巡礼としてここに来て欲しいのです」ともおっしゃいました。それはまず第一に、私達が聖母に対して祈る機会が与えられたことを意味し、次に、痛悔から始めた私たちが、神が私たちのために払われた犠牲と、聖体によって神を受けることによって、神に立ち帰ることを意味します。それはまた、全教会のしるしでもあります。教会は単なる建物だけでなく、そこで祈っている人々から成り立っています。ルルドで私たちは、自分自身のためばかりではなく、全ての人たちが神のもとに帰れるように祈るのです。

私はルルドのお告げの内容を簡単に述べてきましたが、最後になぜ聖母がご自身を「原罪なくして宿った者」とお呼びになったかについて説明したいと思います。

先ず第一に、聖母はその4年前にピオ九世が定められた「無原罪の御宿り」の教義が正しいことを説明したいと思われたのです。

またこの名前の通りに、聖母は私達の模範になることを希望なさいました。聖母は教会の象徴であり、信仰、希望、愛、その他すべてのキリスト教的模範です。また同時に公会議の宣言通りに、聖母は教会の靈的な母として私達の前に姿を現したいと希望なさいました。わたくしたちの母として、聖母は私たちをキリストのもとに導くためにここにお招きになりました。あなたは、ロザリオ・バジリカ聖堂の中で「聖母マリアを通じてキリストへ」のモザイク画をご覧になれます。ここに、聖母がルルドでなさったすべてをみることができます。キリストは唯一の救いの源です。キリストは、神と人間との唯一の媒介者であり、人間の救いであるキリストのもとに私達を導くために、聖母は彼女の子供である私たちをここにお招きになったのです。